E N E R G Y

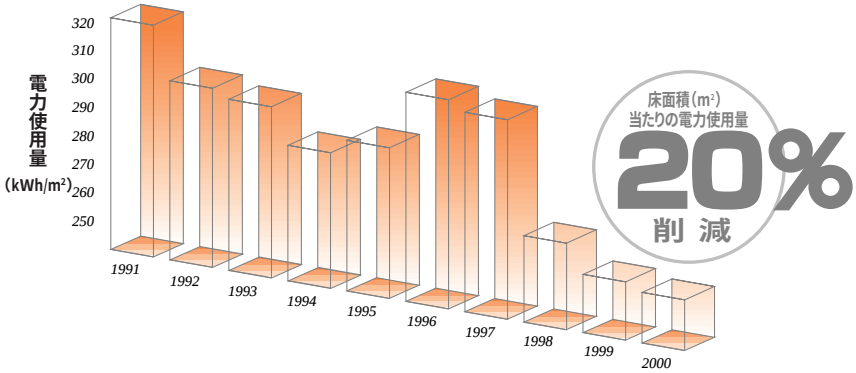
やがてエネルギーも、無い袖は振れなくなる。

数百万年前の原始人に比べ、現代人の消費するエネルギーは、100倍以上といわれています。原始の時代に比べると、産業や暮らしが劇的に変化し、人口は加速度的に増加。しかも、石油をはじめとした化石燃料の底が見えてきたいま、打つ手は、ひとりひとりの心がけと抜本的なエネルギー変換です。この時代を見据えて横河電機は、太陽光発電をはじめとして環境調和のエネルギー対策を積極的に実践していきます。

太陽光発電施設

コジェネ施設

知恵を絞れば、もっとエネルギーは節約できる・・・。その一例が、省エネビルの理想形をめざした本社ビルです。

省エネルギー化に向けて、まず、横河電機が行ったのは設計・生産にいたる幅広い見直しでした。例えば、各生産現場では、設備の運転状況をきめ細かに点検。また、これまで完全連続運転を行っていたクリーンルームも、カレンダータイマーによる週末運休化を実施する一方、各設備ラインの合理的ウォーミングアップ、パッケージコアのインバータ化などを推進しています。しかしながら、抜本的な解決のためには、設備投資を伴う変革が欠かせませんでした。その代表例が、このたび完成した本社・事務棟です。まず、コジェネレーション・システムの採用（585kW×2台）で、冷熱源の38%と温熱源の73%をカバーしながら、買電力の75%削減を達成。冷熱不足分に関してはインバータ制御によるパッケージエアコンで省エネを図る一方、冬季以外の余剰熱源は他の工場建物へ供給するため一切のムダを廃することができました。さらに、無限の自然エネルギーである太陽光による発電を採用（16kW）。買電力の削減と非常用電源としてのスタンバイも兼ねています。その他にも、建物中央部の池の気化熱利用や屋上の一部緑地化による空調負荷の軽減など、さまざまな工夫をこらしたこのビルが、環境調和への新しいビルのカタチを象徴します。

新本館